

令和7年3月8日

芦屋市企画部市民参画・協働推進課
課長 小川 智瑞子 様

(あしや市民活動センター指定管理者)
特定非営利活動法人あしや NPO センター
事務局長 橋野 浩美

「芦屋発、君も今日から新聞記者」報告書

- 1 日時：4/26、6/4、10/4、(編集会議) 5/7 (講座) 7/16、7/24、7/23、8/2 (取材) 10/4、12/23 (編集会議) 3/7 (振返り会)
- 2 会場：リードあしや 会議室 CD 他
- 3 担当：橋野
- 4 参加者：延べ73人 (県立芦屋高等学校、他高校生、取材対象者)
- 5 指導：武藤邦生さん (神戸新聞社)
- 6 事業詳細
 - (1) 目的：子どもの頃から市民活動に触れて、知って、理解を深める環境をつくること。世代を超えたふれあいと、次世代を担う人材育成、活動人口増加を目的とする。
 - (2) 内容：講座1回、編集会議5回、取材9回
高校生記者の興味のある分野、人にインタビューをし、記事に仕上げ、冊子にし、配布する。
- 7 記者の感想
 - ・インタビュー (聴きながら書くこと) は難しく、録音を許可していただき助かった。
 - ・1年目に話を聴きながら広げていくことが難しかったが、2年目は要領を得、うまく話を引き出せたと感じた。
 - ・興味を持った活動の方にインタビューさせていただいたが、さらにそちらの活動にも心が動いた。
- 8 振り返り
 - ・新聞の書き方、写真の撮り方、インタビューの組立を学び、記事に仕上げるまでの学びの場を提供した。生の活動者の声をゼロから文章に仕上げることは、難しかったようだが、仕上げるまで挫折者はなかった。
 - ・県立芦屋高等学校ボランティア部1年2年生4人と、カナダの高校生1人 (夏休み中のみの参加) が、前年度の記者経験者である3年生から教わりながら、興味のある分野、人を検索し、インタビューにチャレンジした。神戸新聞社の武藤記者から校正を受けながら、書きあがった記事をみんなで確認し合った。作文ではない文章を書くこと、質問等、人に伝えることの難しさを学んだようだ。

- ・夏休みだけのボランティアとして、カナダの高校生（日系人）も参加した。異なる環境の仲間ができ、コミュニケーションも増したようだった。
- ・今年度でこの活動はいったん休止する。広報を希望する団体は多少あるが、「書く」ことに興味を持つ学生が少なくなっているが大きな理由である。

以上

